

翔

2008 August No.193
百万石蝶談会



富山市呉羽町で7月にツマグロヒョウモンの幼虫と蛹を観察

松井 泰子・青山 仁

2008年7月3日に、筆者の1人の青山は、自宅の庭で蝶の蛹を見つけ観察したところ、7月7日にツマグロヒョウモンの♀が羽化した。庭には本種の食草となるパンジーをたくさん植えてあり、念入りに調べたところ、幼虫1頭、蛹1頭が新たに見つかった。

2008年7月3日 富山市呉羽町 1 蛹 青山 仁

2008年7月8日 富山市呉羽町 1 幼 1 蛹 青山 仁

この時期の本種の産卵から羽化までの日数は、飼育下では40日程である。野外では2割程度長くなると考えると羽化までは50日程度で、5月17日前後に産卵されたと予想される。隣県の石川県では、本種が幼虫で越冬し5月に羽化することが観察されており、これから類推すると母蝶は本年の第1化成虫であり、富山県呉羽町で越冬し羽化したことが充分に考えられる。



富山市呉羽町で観察した幼虫と羽化(2008年7月8日青山 仁撮影)

《 参考文献 》

松井正人(2004) 石川県で5月にツマグロヒョウモンの羽化直後の個体と蛹の抜殻を観察. 翔(168):5.
奥素八子(2002) 我が家の庭でツマグロヒョウモンの越冬幼虫を観察. 翔(156):1.

《まつい ひろこ 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

《あおやま じん 〒930-0138 富山市呉羽町3 6 3-5》

金沢市と白山市でスジボソヤマキチョウを観察

松 井 正 人

石川県の金沢市と白山市で、スジボソヤマキチョウを観察しているので報告する。本種は、日本鱗翅学会の日本産蝶類県別レッドデータ・リスト(1992)では8県に、同レッドデータ・リスト(2002)では15県に掲載され、「広域衰亡種」とされている(井上、2005)が、金沢市や白山市では健在のようである。

2008年 6 月21日	金沢市駒帰	1 ♂目撃	松井正人
2008年 6 月28日	白山市木滑	1 ♂ 1 ♀目撃	松井正人
2008年 6 月28日	白山市河原山	1 ♂目撃	松井正人
2008年 6 月28日	白山市吉野	1 ♂目撃	松井正人
2008年 6 月28日	白山市河内町吉岡	1 ♂目撃	松井正人
2008年 7 月 5 日	金沢市医王山夕霧峠	1 ♀目撃	松井正人
2008年 7 月13日	白山市中宮スキー場	2 ♂目撃	松井正人



白山市中宮スキー場 2008年7月13日撮影

《 参考文献 》

井上大成(2005) 日本のチョウ類の衰亡理由. 昆虫(NS), 8(2):43-64.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

富山県南砺市奥医王山「龍神池」のトンボの記録

浅 地 哲 也

富山県と石川県の県境に位置する奥医王の頂上付近には、いくつかの池があり、夕霧峠から登山道を登っていくと、左手に奥行き50m、幅20mの最も大きな「龍神池」が現れる。この「龍神池」に、6月14、15日の2日間訪れ、採集したトンボを報告する。

■富山県南砺市奥医王山「龍神池」 浅地哲也 採集

2008年6月15日	エゾイトトンボ	1♂1♀
2008年6月14日	ムカシトンボ	2♂
2008年6月15日	ムカシトンボ	1♂
2008年6月15日	クロサナエ	1♀
2008年6月15日	カラカネトンボ	1♂
2008年6月15日	クロスジギンヤンマ	1♂

ムカシトンボの記録は、比較的遅い記録と思われ、いずれも老熟な個体で、池の畔で摂食しているのが確認された。本種は愛知、茨城などで成熟個体が山頂付近で活動することが報告されている。カラカネトンボは、石川県では絶滅危惧Ⅰ類になっているが、ここでは複数のオスを確認している。クロサナエは、流水で幼虫が育つが、この止水で産卵行動を行っていた。また、エゾイトトンボの個体数は多く感じられた。

《あさじ てつや 〒921-8021 金沢市御影町26-7》

石川県志賀町でジャコウアゲハの産卵を観察

松 井 正 人

志賀町鹿頭と志賀町坪野でジャコウアゲハの産卵を観察したので報告する。

■志賀町鹿頭

耕作地に囲まれた荒地に数頭のジャコウアゲハが飛び交っていた。♀は、地表近くを飛び、羽ばたきながら次々と脚で植物に触れ、ウマノスズクサに触れると、止まって産卵を始めた。小さな食草に母蝶が止まると重さで食草が倒れ、母蝶も一緒になって横倒しになりながら産卵していた。羽を閉じて横倒しになった姿は、あたかも地表にジャコウアゲハが落ちているかのようなだった。

ジャコウアゲハ 2008年5月17日 志賀町鹿頭 1♂3♀多数卵目撃 松井正人

■志賀町坪野

高浜から羽咋に向け農免道路を走っていると、車窓にジャコウアゲハが舞った。車を降りると、車道法面の草むらの中からウマノスズクサが顔を出している。母蝶は、草むらから顔を出している葉には産卵せず、草むらに潜り込むようにして産卵していた。

ジャコウアゲハ 2008年5月17日 志賀町坪野 3♀多数卵目撃 松井正人

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

マダラコガシラミズムシの石川県での記録

江口元章

マダラコガシラミズムシ(*Haliphus sharpi* WEHNCKE, 1880)は環境省編、改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—(2006)で、準絶滅危惧種として掲載されている。これまでに、石川県での分布の報告がないと思われるので報告したい。

■採集確認記録

2008年5月9日 能登町黒川付近 1個体

■生息環境について

確認地点は、標高150mほどの山間の水田跡で、セリやガマがまばらに生えている状態のところで確認した。水深は4cm、水温は20.4℃(10時15分)であった。この水田跡で1㎡あたりの水生生物の生息密度調査時の1サンプルに含まれていたもので、1つの方形枠内で、コガシラミズムシ1個体とマダラコガシラミズムシ1個体が同時に得られた。



《えぐち もとあき 〒480-0103 愛知県丹羽郡扶桑町柏森西屋敷201》

モンキアゲハの石川県進入はいつ頃か

松 井 正 人

温暖化の影響からか、近年はチョウの北進が目立っている。中でもナガサキアゲハの北進は顕著で、1940年代には山口県が分布の北限とされていたが、日本海側では現在、福井県嶺南地方が北限になっている。モンキアゲハもナガサキアゲハと同様に北進を続けているチョウで、日本海側の北限は、現在、新潟県上越市付近にあり、かなり以前に石川県を通り過ぎていく。

1956年の石川むしの会誌「とっくりばち」創刊号には、モンキアゲハの年2回の観察が報じられ（手塚、1956）、同2号には小学生や中学生の採集記の文中に普通種のようにモンキアゲハの名前が登場し（五十嵐、1957）（宮地、1957）（和田木、1957）、既に当時は広く石川県に分布していたと思われる。

石川むしの会より10年早く創刊した越佐昆虫同好會々報によると、新潟県では1933年に新潟市で初めて採集され、1944年に直江津で2頭目、1945年に中頸城郡虫生海岸で3頭目、1946年に刈羽郡横沢村小国郷で4頭目が採集されている（岩野、1947）。また、1947年に富山県氷見で採集されたモンキアゲハが北日本新聞に掲載されたことが報告され（野平、1949）、この記録は富山県の初記録になっている（根来編、1998）。

石川県内での初記録を探し出すことはできなかったが、これらの事から考えると石川県内には1940年代に進入し、1950年代になって広く分布し普通種のように扱われるようになったと考えるのが妥当なところではないだろうか。

石川県・富山県・新潟県のモンキアゲハの記録

観察日	観察場所
1933年(昭和8年)6月23日	新潟県新潟市(新潟県初記録)
1944年(昭和19年)9月10日	新潟県直江津(新潟県2頭目)
1945年(昭和20年)8月26日	新潟県中頸城郡虫生海岸(新潟県3頭目)
1946年(昭和21年)9月8日	新潟県刈羽郡横沢村小国郷(新潟県4頭目)
1947年(昭和22年)8月28日	富山県氷見(富山県初記録)
1955年(昭和30年)	石川県で普通種

《参考文献》

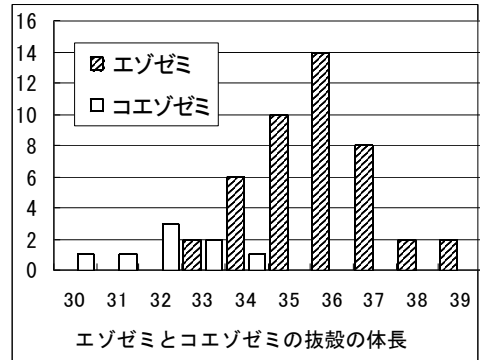
- 五十嵐一夫(1957) 昆虫採集. とっくりばち(2):13-15.
 岩野俊逸(1947) モンキアゲハを小国郷に捕ふ. 越佐昆虫同好會々報(2):32-33.
 宮地慶信(1957) 採集記(1). とっくりばち(2):9-10.
 根来 尚編(1998・1999) モンキアゲハ. 富山県の蝶:132. 富山市科学文化センター.
 野平安芸雄(1949) モンキアゲハと眞貝春男君. 越佐昆虫同好會々報 2(3):76-77.
 手塚正一(1956) 金沢市附近の蝶相(第1報). とっくりばち(1):2-5.
 和田木征範(1957) 石動山に登って. とっくりばち(2):17-19.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

エゾゼミとコエゾゼミの抜殻の違い

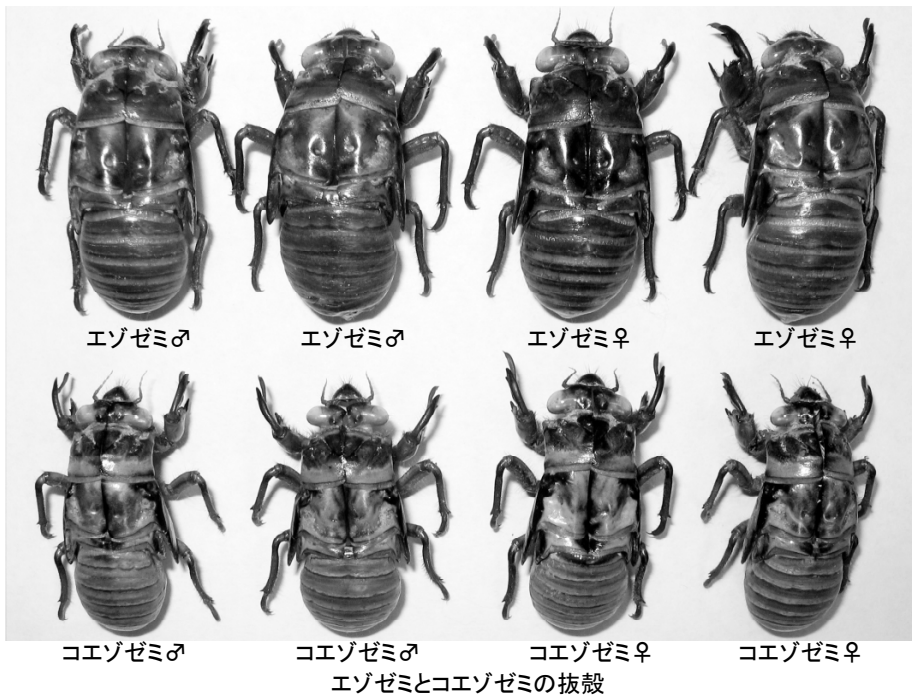
松 井 正 人

2007年に、金沢市医王山蛇尾山でエゾゼミ類の抜殻調査を行い、7月25日から8月19日にかけてエゾゼミとコエゾゼミの抜殻を合わせて53個採集した（松井、2007）。この抜殻の52個を使い、水につけて柔らかくした後、泥を落として展足し体長を測定した。エゾゼミの体長は33～39mmで36mmが最も多く、コエゾゼミの体長は30～34mmで32mmが最も多かった。



エゾゼミとコエゾゼミの体長別抜殻数

種別	30mm	31mm	32mm	33mm	34mm	35mm	36mm	37mm	38mm	39mm
エゾ♂				1	2	9	5	6		
エゾ♀				1	4	1	9	2	2	2
エゾ計				2	6	10	14	8	2	2
コエゾ♂	1	1	2							
コエゾ♀			1	2	1					
コエゾ計	1	1	3	2	1					



《 参考文献 》

松井正人（2007）金沢市医王山蛇尾山におけるエゾゼミ類の抜殻調査. 翔(188):3.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

新種記載されたシラキトビナナフシ

松 井 正 人

発見されて永らく未記載のままだったシラキトビナナフシが、市川顕彦氏と岡田正哉氏の共著で、日本直翅類学会誌「Tettigonia」9号に、*Micadina fagi* Ichikawa & Okada として新種記載された (Ichikawa, Okada, 2008)。ホロタイプは長野県産で、パラタイプには石川県産も含まれている。

ホロタイプ 2000年 8月10日 長野県下伊那郡阿智村Sonohara 1 ♀ 岡田正哉
パラタイプの1頭 1982年10月28日 石川県石川郡尾口村岩間温泉 1 ♀ S. Shimizu

■石川県におけるシラキトビナナフシの記録

1997年 8月20日	白山市 (旧尾口村) 鵺ヶ谷	1 ♀	富沢 章 (松井, 2003)
2000年 8月20日	金沢市奥新保登山口	数 ♀	浅地哲也 (松井, 2003)
2003年 8月16日	金沢市医王山三千坊	1 ♀ 2 幼	浅地哲也 (松井, 2003)
2007年 8月26日	金沢市医王山三千坊	2 ♀	浅地哲也
2007年 9月 2日	金沢市医王山三千坊	1 ♀	松井正人



金沢市医王山三千坊のシラキトビナナフシ (2007年9月2日撮影)

日頃からご指導いただき、シラキトビナナフシの記載文献を紹介していただいた徳本洋氏にお礼申し上げます。

《 参考文献 》

Ichikawa Akihiko, Okada Masaya (2008) Review of Japanese species of *Micadina* Redtenbacher (Phasmatodea, Diapheromeridae), with description of a new species. *Tettigonia* (9):13-31.

松井正人 (2003) 北陸三県のナナフシ類と石川県のナナフシ類. 翔(165):3-5.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

シラキトビナナフシ卵の越冬法と孵化率

松 井 正 人

2007年9月2日に金沢市医王山三千坊で採集したシラキトビナナフシを、ミズナラ、ナラガシワ、ブナ、マテバシイを与えて飼育したところ、マテバシイは全く食べず、ブナは少し食べ、ミズナラ、ナラガシワを好んで食べていた。11月18日の死亡までは毎日のように産卵し、死亡間際の11月13日～18日にかけても8卵を産み、全部で219卵を産んだ。

この卵を、湿気を与える意味で入れたマテバシイの葉1枚と共に密閉容器に入れ、室内で越冬させた。マテバシイの葉は1度だけ入れ替えた。

2008年4月12日に5頭が孵化した。幼虫は、密閉容器の蓋に張り付き、いずれも後肢先端に卵蓋がついたままの孵化殻をぶら下げていた。13日に孵化した4頭も全て孵化殻をぶら下げていたので、卵を湿ったティッシュの上に並べたところ、14日以降に孵化した3頭は、卵蓋は卵から外れ、孵化殻もぶら下げていなかった。孵化したのは全部で12頭で、孵化率は5.5%だった。

飼育期間	産卵数	孵化時期	孵化数	孵化率
2007年9月2日～11月18日	219卵	2008年4月12日～4月16日	12頭	5.5%



卵蓋がついたままの孵化殻を後肢にぶら下げた初齢幼虫

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

会員の動き・しゃばの動き

■ポイ捨てはいけません

西表島でネットを振っていた細沼氏、気が付くとネットのなかに枝が入っている。取り出そうとしてナナフシと気付いたが、じゃまなのでポイッと捨ててしまった。西表にはツダやコブと言った魅惑のナナフシがいるので、よい子は絶対真似しないだね。

■狼煙でアサギが大乱舞

6月8日は、各地の海岸にアサギマダラの飛来が多く、珠洲の狼煙では大乱舞が観察された。防波堤の下を覗くと100m位の狭い場所に100頭程が舞っていた。ネットを出すと乱舞が消えてしまいそうで、なかなか出せなかった。

■あこがれヒメマークを2頭ゲット

今でこそ南下の再捕獲は1000頭を越す勢いになっているが、北上するアサギマダラの再捕獲は超レアもので、年間10頭前後。この北上アサギの代表格がヒメマークで、日吉氏は輪島市三ツ子浜で今年は2頭もゲットし、通算ゲット数は5頭になった。この数は、もちろん日本一。

■徳本氏が環境大臣表彰

自然環境の保全や自然とのふれあいに関する調査・研究が認められ環境大臣から表彰を受けた徳本氏をお祝いし、6月20日に国際ホテルで祝賀会が開かれた。

■オオミスジが見つからない

20年程前は、金沢の各地で観察できたオオミスジ、簡単に見つかるだろうと調査に臨んだが見つからない。小原、大平沢、犀川上流、医王山周辺では、見つからなかった。

■ヒメハルゼミは生息するか

シイやカシなどの薄暗い森に生息し、新潟県は能生の白山神社社叢、福井県は若狭湾の御神島に生息している。県内では、大野正男氏や徳本 洋氏などが調査しているが、見つかっていない。

■急に華やいだ馬の背サロン

6月16日から毎日開催され、多い日には10人ほどが参加するサロンだが、参加は野郎ばかりか、白いものが頭に目立ち始めたオヤジがほとんど。そんな中に、うら若き女性が長竿を持って現れた。振り回す竿は空振りばかりだが、ヤジどころか華やかなムードが漂った。

■足湯につかるサル軍団

中宮温泉に足湯ができたが、温泉宿より奥にあるので利用しづらく、もっぱらサル軍団が使っている。泳ぐ小猿がボス猿に怒られ、かつての銭湯のようだった。

■増えたヒョウモン減ったヒョウモン

かつて金沢市周辺でメスグロは観察できず、能登まで出かけていたが、だんだんと観察地が近づき今では金沢でも観察できるようになった。すると今度はウラギンスジの観察が難しくなってきた。森林環境を好む種が増え、草原環境を好む種が減少しているのだろうか。

■標本1万頭への道

標本という最高の情報源を残すために、2005年の年頭に宣言した日吉氏、いよいよゴールが迫った。今年に入り、既に700頭を作成し、7月の総数は9550頭になった。

■ 例会の記録 ■

6月5日(木) 浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、浅地氏が福井県美浜市で見つけたシシ神の森を紹介。木々の間に苔むした湿地が続き、その中をチョロチョロと水が流れている。ヒラサナエが棲むと確信できる場所だった。

その他の話題は、海岸マーキングは100頭を突破、姫島アサギが大島海岸に飛来、金沢のオオミスジを探そう、これがエサキキンヘリだ、ヒラサナエのはあく器を比較、福井のヒメハルは御神島、沖縄の次は北海道で虫採り、などなど。

参加は、井村、大宮、浅地、勝海、浅野、松井の6人。

■ 例会の記録 ■

7月3日(木) 浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、松井氏が海岸マーキングの結果を紹介。アサギマダラは5月17日から6月19日にかけて8市町で観察され、姫島アサギは3頭が観察された。総観察数は1257頭で、半数以上は珠洲市で観察されている。

その他の話題は、馬の背サロンは6月16日から、白山市でオオミスジを観察、小さなサツマジミ、尾口村鍾乳洞の案内人、アカエゾゼミのお手軽調査、ヒメハルゼミは分布するか、などなど。

参加は、勝海、大宮、浅野、細沼、浅地、松井、山岸、井村、長田、小幡の10人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

松井泰子・青山 仁：富山市呉羽町で7月にツマグロヒョウモンの幼虫と蛹を観察	1
松井正人：金沢市と白山市でスジボソヤマキチョウを観察	2
浅地哲也：富山県南砺市奥医王山「龍神池」のトンボの記録	3
松井正人：石川県志賀町でジャコウアゲハの産卵を観察	3
江口元章：マダラコガシラミズムシの石川県での記録	4
松井正人：モンキアゲハの石川県進入はいつ頃か	5
松井正人：エゾゼミとコエゾゼミの抜殻の違い	6
松井正人：新種記載されたシラキトビナナフシ	7
松井正人：シラキトビナナフシ卵の越冬法と孵化率	8
編集部：会員の動き・しゃばの動き	9

翔

193号

Tobu 2008年8月10日発行

百万石蝶談会

金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121

☎076-258-2727

郵便振替

00750-8-562

印刷

小西紙店印刷所

撮影/松井 正人



撮影/松井 正人



撮影/青山 仁



撮影/松井 正人